

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤

ロキソプロフェンNaテープ[®]50mg「アメル」 ロキソプロフェンNaテープ[®]100mg「アメル」

LOXOPROFEN Na Tape 50mg・Tape 100mg 「AMEL」

剤形	貼付剤（テープ剤）
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	ロキソプロフェンNaテープ50mg「アメル」： 1枚(膏体質量1g)中、日局ロキソプロフェンナトリウム水和物56.7mg (無水物として50mg)含有する。 ロキソプロフェンNaテープ100mg「アメル」： 1枚(膏体質量2g)中、日局ロキソプロフェンナトリウム水和物113.4mg (無水物として100mg)含有する。
一般名	和名：ロキソプロフェンナトリウム水和物 洋名：Loxoprofen Sodium Hydrate
製造販売承認年月日・ 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：2013年2月15日 薬価基準収載年月日：2013年6月21日 発売年月日：2013年6月21日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元：共和薬品工業株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	共和薬品工業株式会社 お問い合わせ窓口 TEL.0120-041189(フリーダイヤル) FAX.06-6121-2858 医療関係者向けホームページ http://www.kyowayakuhin.co.jp/amel-di/

本IFは2021年2月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。
最新の添付文書情報は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ
<https://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更に合わせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ (<http://www.info.pmda.go.jp/>) から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤，注射剤，外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの，製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下，「IF 記載要領 2013」と略す）により作成された IF は，電子媒体での提供を基本とし，必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IF の発行]

- ①「IF 記載要領 2013」は，平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については，「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂，再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ，記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては，PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は，電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については，医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが，IF の原点を踏まえ，医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ，IF の利用性を高める必要がある。また，随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては，IF が改訂されるまでの間は，当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等，あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに，IF の使用にあたっては，最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお，適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり，その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし，薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により，製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて，当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから，記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は，IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり，インターネットでの公開等も踏まえ，薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

目次

I. 概要に関する項目	
1. 開発の経緯	1
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1
15. 刺激性	10
16. その他	10
II. 名称に関する項目	
1. 販売名	2
2. 一般名	2
3. 構造式又は示性式	2
4. 分子式及び分子量	2
5. 化学名（命名法）	3
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	3
7. CAS 登録番号	3
III. 有効成分に関する項目	
1. 物理化学的性質	4
2. 有効成分の各種条件下における安定性	4
3. 有効成分の確認試験法	5
4. 有効成分の定量法	5
IV. 製剤に関する項目	
1. 剤形	6
2. 製剤の組成	6
3. 用時溶解して使用する製剤の調製法	7
4. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意	7
5. 製剤の各種条件下における安定性	7
6. 溶解後の安定性	8
7. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	8
8. 溶出性	8
9. 生物学的試験法	8
10. 製剤中の有効成分の確認試験法	9
11. 製剤中の有効成分の定量法	9
12. 力価	9
13. 混入する可能性のある夾雑物	9
14. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	10
V. 治療に関する項目	
1. 効能又は効果	11
2. 用法及び用量	11
3. 臨床成績	11
VI. 薬効薬理に関する項目	
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	13
2. 薬理作用	13
VII. 薬物動態に関する項目	
1. 血中濃度の推移・測定法	15
2. 薬物速度論的パラメータ	15
3. 吸収	16
4. 分布	16
5. 代謝	17
6. 排泄	17
7. トランスポーターに関する情報	18
8. 透析等による除去率	18
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	
1. 警告内容とその理由	19
2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	19
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	19
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	19
5. 慎重投与内容とその理由	19
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	19
7. 相互作用	19
8. 副作用	20
9. 高齢者への使用	21
10. 妊婦，産婦，授乳婦等への使用	21

11. 小児等への使用	21
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	21
13. 過量投与	21
14. 適用上の注意	21
15. その他の注意	21
16. その他	21

XⅢ. 備考

その他の関連資料	28
----------	----

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験	22
2. 毒性試験	22

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分	23
2. 有効期間又は使用期限	23
3. 貯法・保存条件	23
4. 薬剤取扱い上の注意点	23
5. 承認条件等	24
6. 包装	24
7. 容器の材質	24
8. 同一成分・同効薬	24
9. 国際誕生年月日	24
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	24
11. 薬価基準収載年月日	24
12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	24
13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容	25
14. 再審査期間	25
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	25
16. 各種コード	25
17. 保険給付上の注意	25

XⅠ. 文献

1. 引用文献	26
2. その他の参考文献	26

XⅡ. 参考資料

1. 主な外国での発売状況	27
2. 海外における臨床支援情報	27

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

ロキソプロフェンナトリウムは、我が国で合成、開発されたフェニルプロピオン酸系の非ステロイド性抗炎症薬である。本剤は 2 個の不斉炭素に由来する合計 4 個（鏡像異性体を含めて）の立体異性体の混合物である。一種の prodrug で、生体内で側鎖のカルボニル基が還元されてアルコールとなり、これが活性代謝物として作用する。¹⁾

本邦ではテープ剤が平成 20 年に上市されている。

ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」、テープ 100mg 「アメル」は、共和薬品工業株式会社が後発医薬品として開発を企画し、「医薬品の承認申請について(平成 17 年 3 月 31 日薬食発第 0331015 号)」に基づき規格及び試験方法を設定、長期保存試験、生物学的同等性試験を実施し、平成 25 年 2 月に承認を取得して同年 6 月に上市した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤は、ロキソプロフェンナトリウム水和物含有テープ剤である。
- (2) 患部に合わせて 50mg (7cm×10cm)、100mg (10cm×14cm) の 2 サイズから選べる。
- (3) プロドラッグであり、活性代謝物のトランス OH 体が酸性非ステロイド性抗炎症薬としての作用を示す。すなわち、プロスタグランジン生合成の律速酵素であるシクロオキシゲナーゼ (COX) を阻害し、プロスタグランジンの産生を抑制することにより、抗炎症作用、解熱作用、鎮痛作用を現す。構成型 COX (COX-1) と誘導型 COX (COX-2) に対する選択性はない。^{1, 2)}
- (4) 重大な副作用として、ショック、アナフィラキシーがあらわれることがある。

Ⅱ. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名：

ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」
ロキソプロフェン Na テープ 100mg 「アメル」

(2) 洋名：

Loxoprofen Na Tape 50mg 「AMEL」
Loxoprofen Na Tape 100mg 「AMEL」

(3) 名称の由来：

本剤の一般名「ロキソプロフェンナトリウム水和物」、共和薬品工業(株)の屋号「アメル」(AMEL)に由来する。

2. 一般名

(1) 和名(命名法)：

ロキソプロフェンナトリウム水和物(JAN)

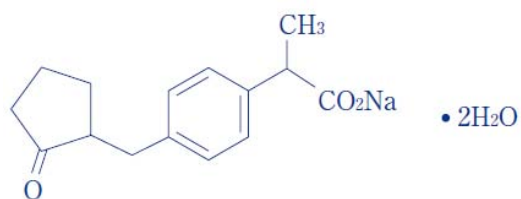
(2) 洋名(命名法)：

Loxoprofen Sodium Hydrate(JAN)

(3) ステム：

抗炎症剤、イブプロフェン誘導体：-profen(x)

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式：C₁₅H₁₇NaO₃・2H₂O

分子量：304.31

5. 化学名(命名法)

Monosodium 2-{4-[(2-oxocyclopentyl)methyl]phenyl}propanoate dihydrate (IUPAC)

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

該当資料なし

7. CAS 登録番号

80382-23-6

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状：

白色～帯黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。

においはなく、収れん性の味があり、後にわずかに甘味と塩味がある。¹⁾

(2) 溶解性：

溶 媒	日局表現
水 メタノール	極めて溶けやすい
エタノール(95)	溶けやすい
ジエチルエーテル	ほとんど溶けない

(3) 吸湿性：

該当資料なし

(4) 融点(分解点), 沸点, 凝固点：

融点は約 197°C(分解)である。¹⁾

(5) 酸塩基解離定数：

該当資料なし

(6) 分配係数：

該当資料なし

(7) その他の主な示性値：

本品の水溶液(1→20)は旋光性を示さない。

本品 1.0g を新たに煮沸して冷却した水 20mL に溶かした液の pH は 6.5 ～ 8.5 である。¹⁾

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

日本薬局方「ロキソプロフェンナトリウム水和物」による

- (1) 紫外可視吸光度測定法
- (2) 赤外吸収スペクトル測定法(臭化カリウム錠剤法)
- (3) ナトリウム塩の定性反応

4. 有効成分の定量法

日本薬局方「ロキソプロフェンナトリウム水和物」による
液体クロマトグラフィー

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 投与経路：

経皮

(2) 剤形の区別, 外観及び性状：

剤形の区分：貼付剤(テープ剤)

販売名	ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」	ロキソプロフェン Na テープ 100mg 「アメル」
性状・剤形	無色～白色半透明の膏体を支持体に展延し、膏体面をポリエチレンテレフタレートフィルムで被覆した貼付剤であり、特異な芳香がある。	
大きさ	7cm×10cm/枚	10cm×14cm/枚

(3) 製剤の物性：

粘着力試験：粘着面で停止するスチールボールは No.7 以上

(4) 識別コード：

なし

(5) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 安定な pH 域等：

該当資料なし

(6) 無菌の有無：

無菌ではない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量：

ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」

1 枚(膏体質量 1g)中、日局ロキソプロフェンナトリウム水和物 56.7mg(無水物として 50mg)を含有する。

ロキソプロフェン Na テープ 100mg 「アメル」

1 枚(膏体質量 2g)中、日局ロキソプロフェンナトリウム水和物 113.4mg(無水物として 100mg)を含有する。

(2) 添加物：

スチレン・イソプレン・スチレンブロック共重合体、ポリイソブチレン、脂環族飽和炭化水素樹脂、水素添加ロジングリセリンエステル、流動パラフィン、DL-リンゴ酸、イソステアリン酸、マクロゴール 6000、*l*-メントール

(3) 添付溶解液の組成及び容量：

該当しない

3. 用時溶解して使用する製剤の調製法

該当しない

4. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

5. 製剤の各種条件下における安定性

(1) 長期保存試験での安定性³⁾：

ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」、テープ 100mg 「アメル」で実施した長期保存試験での安定性試験方法及び結果は次のとおりである。

試験区分	長期保存試験
試験期間	36 ヶ月
試験条件	温度：25±1℃、湿度：60±5%RH
包装形態	アルミニウム袋包装

ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」

アルミニウム袋包装*(n=9)

試験項目	規格	開始時	3 ヶ月	6 ヶ月	9 ヶ月	12 ヶ月	18 ヶ月	24 ヶ月	30 ヶ月	36 ヶ月
性状	無色～白色半透明の膏体を支持体に展延し、膏体面をポリエチレンテレフタレートフィルムで被覆した貼付剤。特異な芳香がある。	無色～白色半透明の膏体を支持体に展延し、膏体面をポリエチレンテレフタレートフィルムで被覆した貼付剤。特異な芳香があった。	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
含量試験	90.0～110.0%	99.3%	99.8%	100.1%	99.4%	99.6%	99.0%	99.7%	98.9%	99.1%

*：未包装バルク製剤をアルミニウム袋包装したもの。

ロキソプロフェン Na テープ 100mg 「アメル」

アルミニウム袋包装*(n=9)

試験項目	規格	開始時	3 ヶ月	6 ヶ月	9 ヶ月	12 ヶ月	18 ヶ月	24 ヶ月	30 ヶ月	36 ヶ月
性状	無色～白色半透明の膏体を支持体に展延し、膏体面をポリエチレンテレフタレートフィルムで被覆した貼付剤。特異な芳香がある。	無色～白色半透明の膏体を支持体に展延し、膏体面をポリエチレンテレフタレートフィルムで被覆した貼付剤。特異な芳香があった。	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
含量試験	90.0～110.0%	100.2%	100.8%	100.1%	99.1%	99.1%	99.2%	100.7%	99.4%	99.2%

*：未包装バルク製剤をアルミニウム袋包装したもの。

6. 溶解後の安定性

該当しない

7. 他剤との配合変化(物理化学的変化)

該当しない

8. 溶出性

放出試験⁴⁾

試験方法	日本薬局方 一般試験法 溶出試験法 パドル法
試験条件	試験液量：900mL、温度：32±0.5℃
回転数	50回転
試験液	日本薬局方 精製水

試験時間	規格	放出率	
		ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」	ロキソプロフェン Na テープ 100mg 「アメル」
4 時間	30～60%	40.7～55.7%	41.8～54.9%
24 時間	70%以上	70.9～88.1%	70.1～94.1%

9. 生物学的試験法

該当しない

10. 製剤中の有効成分の確認試験法

薄層クロマトグラフィー

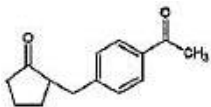
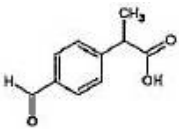
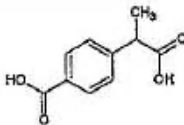
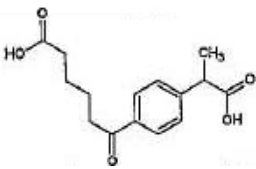
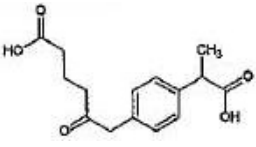
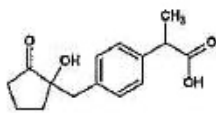
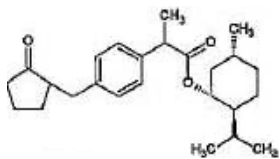
11. 製剤中の有効成分の定量法

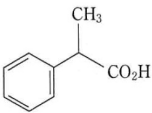
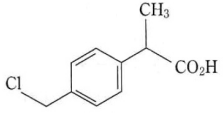
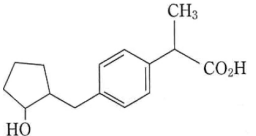
液体クロマトグラフィー

12. 力 価

該当しない

13. 混入する可能性のある夾雑物

物質名	構造式	化学名
類縁物質 I		2-(4-Acetylbenzyl)cyclopentanone
類縁物質 II		2-(4-Formylphenyl)propionic acid
類縁物質 III		4-(1-Carboxyethyl)benzoic acid
類縁物質 IV		6-[4-(1-Carboxyethyl)phenyl]-6-oxo-hexanoic acid
類縁物質 V		6-[4-(1-Carboxyethyl)phenyl]-5-oxo-hexanoic acid
類縁物質 VI		2-[4-(1-Hydroxy-2-oxo-cyclopentylmethyl)phenyl]propionic acid
類縁物質 VII		2-[4-(2-Oxo-cyclopentylmethyl)phenyl]propionic acid (-)-menthyl ester

類縁物質Ⅷ (日局 1)		2-Phenylpropionic acid
類縁物質Ⅸ (日局 2)		2-(4-Chloromethylphenyl)propionic acid
類縁物質Ⅹ (日局 3)		2-[4-(2-Hydroxycyclopentylmethyl)phenyl]propionic acid

14. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

15. 刺激性

該当資料なし

16. その他

該当資料なし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛
変形性関節症、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛

2. 用法及び用量

1日1回、患部に貼付する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ：

該当しない

(2) 臨床効果：

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験：

該当資料なし

(4) 探索的試験：

該当資料なし

(5) 検証的試験：

1) 無作為化並行用量反応試験：

該当資料なし

2) 比較試験：

該当資料なし

3) 安全性試験：

該当資料なし

4) 患者・病態別試験：

該当資料なし

(6) 治療的使用：

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)：

該当しない

- 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要：
該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

非ステロイド抗炎症薬(NSAIDs)

サリチル酸系	: アスピリン、サリチル酸 等
アントラニル酸系	: メフェナム酸 等
アリール酢酸系(フェニル酢酸系)	: ジクロフェナクナトリウム 等
アリール酢酸系(インドール酢酸系)	: インドメタシン、スリンダク 等
アリール酢酸系(ピラノ酢酸系)	: エトドラク
プロピオン酸系	: イブプロフェン、ナプロキセン 等
オキシカム系	: メロキシカム 等

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序^{1)、2)} :

本薬はプロドラッグであり、活性代謝物のトランス OH 体が酸性非ステロイド性抗炎症薬(NSAID_s)としての作用を示す。

炎症のケミカルメディエーターであるプロスタグランジン(PG)の生合成を阻害することにより、抗炎症作用、解熱作用、鎮痛作用を現す。プロスタグランジンは細胞膜の構成脂質であるアラキドン酸から生合成され、その律速酵素はシクロオキシゲナーゼ(COX)であるが、NSAID_sのPG生合成阻害機序はこのCOXの阻害である。シクロオキシゲナーゼは、細胞内に恒常的に存在して生理的なプロスタグランジン産生を司る「構成型」(COX-1)と、炎症刺激などにより新たに発現・誘導される「誘導型」(COX-2)とに分類される。

本薬は、構成型COX(COX-1)と誘導型COX(COX-2)に対する選択性はない。

NSAID_sは抗炎症作用以外に、解熱及び鎮痛作用を現すが、これらの作用もプロスタグランジン生合成阻害に起因する共通のものと考えられる。即ち、細菌感染や各種の刺激により組織や細胞が損傷を受けると、内因性の発熱物質が遊離され、それらが体温調節中枢を刺激することによりプロスタグランジンの産生が促され、プロスタグランジンは体温調節中枢の設定温度を上昇させる。これが発熱の機序であるが、NSAID_sはこの過程におけるプロスタグランジンの産生を抑制することによって設定温度を正常に戻す。即ち解熱効果を発揮する。

また、組織の損傷が起こると発痛物質であるブラジキニンが産生され、同時に産生されたプロスタグランジンはこのブラジキニンの発痛作用を増強すると考えられる。従って、NSAID_sによりプロスタグランジンの産生が阻害されれば、鎮痛効果が得られることになる。

(2) 薬効を裏付ける試験成績 :

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間：

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

- (1) 治療上有効な血中濃度：
該当資料なし
- (2) 最高血中濃度到達時間：
該当資料なし
- (3) 臨床試験で確認された血中濃度：
該当資料なし
- (4) 中毒域：
該当資料なし
- (5) 食事・併用薬の影響：
該当資料なし
- (6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因：
該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

- (1) 解析方法：
該当資料なし
- (2) 吸収速度定数：
該当資料なし
- (3) バイオアベイラビリティ：
該当資料なし
- (4) 消失速度定数：
該当資料なし
- (5) クリアランス：
該当資料なし
- (6) 分布容積：
該当資料なし
- (7) 血漿蛋白結合率¹⁾：
血漿中での未変化体及び *trans*-OH 体のタンパク結合率は、それぞれ 97%、93%である。

3. 吸 収

該当資料なし

4. 分 布

(1) 血液－脳関門通過性：

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性：

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性：

該当資料なし

(4) 髄液への移行性：

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性：

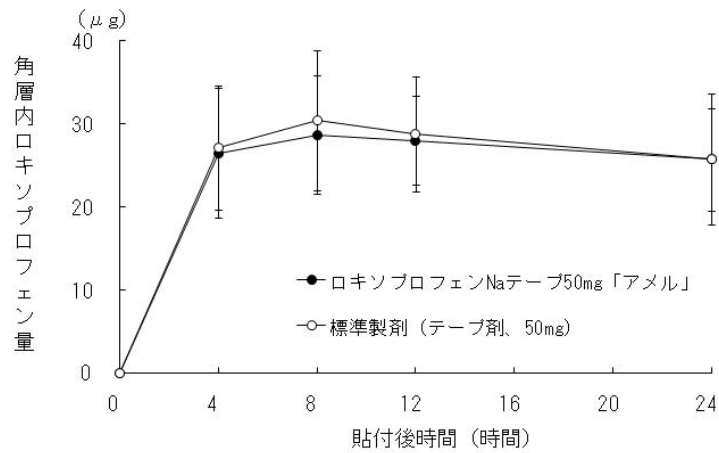
生物学的同等性試験⁵⁾：

ロキソプロフェンナトリウム水和物製剤であるロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」、テープ 100mg 「アメル」の医薬品製造販売承認申請を行うに当たり、ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」又は標準製剤を健康成人男子 6 例(1 群 3 例)に貼付し、角層内ロキソプロフェン量を測定して、両製剤の生物学的同等性を検証した。

治験デザイン	「局所皮膚適用製剤の後発医薬品のための生物学的同等性試験ガイドライン(平成 15 年 7 月 7 日付 薬食審査発第 0707001 号)」の皮膚薬物動態学的試験により実施した。 無作為に 2 群に分けた被験者の背部皮膚にロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」又はロキソニンテープ 50mg をそれぞれ直径 2cm の円状に裁断したもの(ロキソプロフェンナトリウム無水物として約 2.2mg 含有)を部位毎に 4 枚貼付した。
貼付時間	貼付時間は、4、8、12 及び 24 時間とした。
分析法	HPLC 法

貼付後 4 及び 24 時間における角層内ロキソプロフェン量について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.70) \sim \log(1.43)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

	4 時間	24 時間
90%信頼区間	$\log(0.93094) \sim \log(1.01371)$	$\log(0.86996) \sim \log(1.19592)$



角層内ロキソプロフェン量は、被験者の選択、貼付時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路：

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種：

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合：

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率¹⁾：

活性代謝物のトランス OH 体が酸性非ステロイド性抗炎症薬としての作用を示す。

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ：

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路：

該当資料なし

(2) 排泄率：

該当資料なし

(3) 排泄速度：

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者
2. アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者[喘息発作を誘発することがある。]

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
気管支喘息の患者[病態を悪化させることがある。]

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

重要な基本的注意

- (1) 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
- (2) 皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染による炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に使用すること。
- (3) 慢性疾患(変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には、薬物療法以外の療法も考慮すること。また、患者の状態を十分に観察し、副作用の発現に留意すること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由：

該当しない

(2) 併用注意とその理由：

該当しない

8. 副作用

(1) 副作用の概要：

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状：

重大な副作用(頻度不明)

ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー(血圧低下、蕁麻疹、喉頭浮腫、呼吸困難等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用：

その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
皮膚	そう痒、紅斑、接触性皮膚炎、皮疹、皮下出血、皮膚刺激、色素沈着、水疱、腫脹
消化器	胃不快感、上腹部痛、下痢・軟便
肝臓	AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、 γ -GTP 上昇
その他	浮腫

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧：

該当資料なし

(5) 基礎疾患, 合併症, 重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度：

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法：

- 1) 本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと。
- 2) ショック、アナフィラキシー(血圧低下、蕁麻疹、喉頭浮腫、呼吸困難等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への使用

ロキソプロフェンナトリウム水和物貼付剤の製造販売後調査の結果、65歳以上の高齢者での副作用の発現率は、65歳未満と比較して有意に高かった。主な副作用が貼付部の皮膚症状であったことから、特に65歳以上の高齢者に使用する場合は、貼付部の皮膚の状態に注意すること。

10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への使用

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。[妊娠中の使用に関する安全性は確立していない。シクロオキシゲナーゼ阻害剤(経口剤、坐剤)を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水過少症が起きたとの報告がある。]
- (2) 他の非ステロイド性消炎鎮痛剤の外皮用剤を妊娠後期の女性に使用し、胎児動脈管収縮が起きたとの報告がある。

11. 小児等への使用

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

使用部位：

- (1) 損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。
- (2) 湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。

15. その他の注意

該当資料なし

16. その他

該当資料なし

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験(「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照) :

(2) 副次的薬理試験 :

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験 :

該当資料なし

(4) その他の薬理試験 :

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験 :

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験 :

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験 :

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性 :

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤：該当しない

有効成分：ロキソプロフェンナトリウム水和物 劇薬

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年(安定性試験結果に基づく)

3. 貯法・保存条件

室温保存(遮光した気密容器に保存)

開封後はチャックを軽く押えて閉じること。

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について：

〈安定性試験〉³⁾

最終包装製品を用いた長期保存試験(25±1℃、相対湿度 60±5%、36ヵ月)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」・テープ 100mg 「アメル」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。

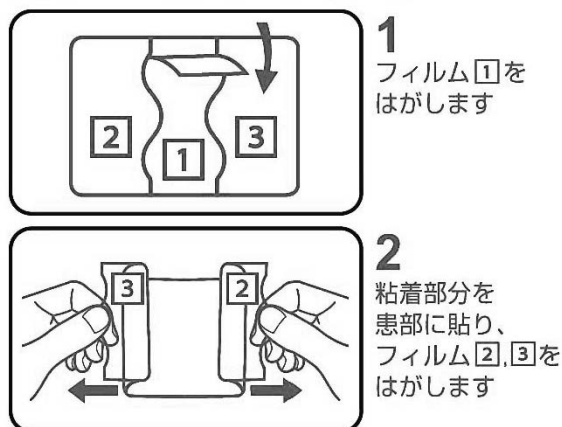
(2) 薬剤交付時の取り扱いについて(患者等に留意すべき必須事項等)：

くすりのしおり：有り

「VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目 14.適用上の注意」参照

〈使用方法〉

●透明フィルムをはがして、患部に貼ってください



●患部が汗などでぬれている場合は、よくふきとってから使用してください

(3) 調剤時の留意点について：

該当資料なし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包 装

ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」：70 枚(7 枚/1 袋×10 袋)

ロキソプロフェン Na テープ 100mg 「アメル」：70 枚(7 枚/1 袋×10 袋)

7. 容器の材質

ライナー：ポリエチレンテレフタレート

支持体：化繊布

内 袋：アルミニウム袋

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ロキソニンテープ 50mg、ロキソニンテープ 100mg (第一三共株)

同効薬：アスピリン、サリチル酸、メフェナム酸、ジクロフェナクナトリウム、インドメタシン、スリンダク、モフェゾラク、エトドラク、ナブメトン、イブプロフェン、ナプロキセン、メロキシカム 等

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造販売承認年月日

2013 年 2 月 15 日

承認番号

ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」：22500AMX00318

ロキソプロフェン Na テープ 100mg 「アメル」：22500AMX00319

11. 薬価基準収載年月日

2013 年 6 月 21 日

12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13.再審査結果,再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14.再審査期間

該当しない

15.投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。

16.各種コード

販売名	HOT (9桁)番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算コード
ロキソプロフェン Na テープ 50mg 「アメル」	122387301	2649735S2121	622238701
ロキソプロフェン Na テープ 100mg 「アメル」	122388001	2649735S3128	622238801

17.保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I . 文献

1. 引用文献

- 1) 第十七改正日本薬局方 解説書,ロキソプロフェンナトリウム水和物,廣川書店(2016)
- 2) 第十七改正日本薬局方 解説書,インドメタシン,廣川書店(2016)
- 3) 共和薬品工業株式会社 社内資料：安定性試験
- 4) 共和薬品工業株式会社 社内資料
- 5) 共和薬品工業株式会社 社内資料：生物学的同等性試験

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当資料なし

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

XⅢ. 備考

その他の関連資料

該当資料なし